

竜丘キリスト教会
主日礼拝次第

＜聖霊降臨節第15主日・敬老感謝礼拝＞

2025年9月14日(日) 午後2時30分

2025年 年間標語「主を喜ぶ、力ある教会—大いなる愛、赦しの神—」

2025年 年間聖句 ネヘミヤ記8章10節

「この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。

主を喜ぶことはあなたがたの力です。」

司式 湯本赦頼師

奏楽 小林園子姉

前 奏 (黙禱)

招 詞 イザヤ書46章3～4節

ヤコブの家よ、イスラエルの家の残ったすべての者よ、生れ出た時から、わたしに負われ、胎を出た時から、わたしに持ち運ばれた者よ、わたしに聞け。わたしはあなたがたの年若いまで変らず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。

賛 美 新聖歌11番「ほめたたえよ 造り主を」 一同 起立

主の祈り 讚美歌の表紙を開いたページ、または564

使徒信条 讚美歌の表紙を開いたページ、または566

交 読 文 16 詩篇42編(新聖歌840頁)

聖 書 ヨハネの福音書15章12～17節(新約167頁)

祈 禱

賛 美 新聖歌222番「罪の深みに」 一 同

説 教 「一切のことを、愛をもって」 湯本赦頼師

賛美・献金 新聖歌220番「恵みの光は」 一同 起立

感謝の祈り 篠本明子姉

頌 栄 新聖歌62番「天つ御民も」

祝 福 湯本赦頼師

後 奏

9・10月の礼拝・聖会

9月21日(日)14時半 湯本赦頼師 聖霊降臨節第16主日

9月24日(木)13時半～/19時半～ 祈祷会

9月28日(日)14時半 湯本愛恵師 聖霊降臨節第17主日

10月 5日(日)14時半 湯本赦頼師 世界聖餐日 ※聖餐式

10月12日(日)～13日(月) 竜丘聖会(教会創立101周年)

12日(日)10時 高橋一樹師 記念礼拝(知久町・伊那と合同)

12日(日)13時半 高橋一樹師 聖会①

13日(月)10時 岸 義紘師 聖会②

13日(月)13時半 岸 義紘師 サクスフォンコンサート

報 告

★敬老感謝礼拝の恵みを感謝いたします。皆様の一人ひとりに、神の祝福が豊かにありますように。礼拝後は敬老感謝祝賀会を行います。皆様ぜひお集いください。

★本日祝賀会后、定例役員会を行います。主の導きをお祈りください。

★来月10/12(日)～13(月・祝)に、教会創立101周年を記念し竜丘聖会を開催します。講師として湘南グレースチャペルの高橋一樹師と、JTJ宣教神学校前校長・現講師の岸義紘師をお迎えします。日曜午前の記念礼拝は飯田知久町教会・伊那キリスト教会・竜丘の3教会合同で行います。月曜午後はサックスコンサートです。その他、詳細はチラシをご参照ください。祝福をお祈りくださり、ぜひみなさまご参加ください。また、ご友人や地域の方々をお誘いください。

★キリスト伝道会「活水の群」祈祷課題

9月14日(日)から1週間は、湘南グレースチャペルと高橋一樹先生、佐藤創先生のために。

1. 教会に与えられたビジョンと2025年度のテーマを実行していけるように。
2. 新しいことにチャレンジし伝道の働きを進めていけるように、新来会者、受洗者がおこされるように。
3. 高橋牧師と佐藤伝道師の健康と牧会の働きが守られ、教会員の歩みが祝されるように。

★9.7 主日礼拝 男3名、女4名、子2名 計9名
礼拝献金 8,510円

★9.14 伊那礼拝：田添禧雄師

★9.21 説教：湯本赦頼師、奏楽：篠本明子姉、献金：小林聖兄

賛美 新18、新111、新324、新60

聖書 イザヤ書41章8-13節(旧約999頁)

説教 『恐れてはならない—主のしもべ、主の友として—』

【先週講壇】9/7(日)主日礼拝 コリント人への第一の手紙 16章 1-14節
「一切のことを、愛をもって」 湯本赦頼師

「一切のことを、愛をもって行いなさい」と聖書は言う(14節)。私たちの日々の言動、判断、取捨選択…それらは「愛」によるものだろうか。神が人に与える戒めのうち、最も重要なのは「愛しなさい」であると聖書は言う。神の子イエス・キリストの命令は、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと」である(ヨハネ 15:12)。まず、神が私たちを愛してくださった。私たちを創造し、いのちを与え、生かしてくださった。そして、ひとり子イエスを十字架の上で代わりに犠牲とし、私たちの罪を赦してくださった。ここに愛がある。私たちは神に愛された者として、神を愛し、隣人を愛して生きてゆく。目に見えるすべてがやがて朽ちてゆく。しかし、愛は永遠に残る実、天に積まれる宝。私たち自身の人格や能力によってではなく、日々天から注がれる恵みとみことばの励ましによって、「一切のことを、愛をもって行いなさい」と主は言われる。

パウロは、その愛の実践例を示している。まず「献金」。飢饉に見舞われ困窮するエルサレム教会のため、各地で募られる献金。献金もまた、神への愛の応答であり、経済的支援という愛の具体的実行である。しかし、パウロは「それぞれ…収入に応じて」と(2節)、献金の自主性を強調する。愛で始められたものが、偽善に陥ってしまうことがないように。勧める愛と、配慮する愛の両方を垣間見る。続いて「会いに行く」。パウロは手紙を送るだけでなく、コリント教会の兄姉に会いに行く。それも、「旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくありません」と言う(7節)。通過点でなく、目的地としての訪問。イエスの愛を思い出す。ザアカイは、自分はイエスの通過点に過ぎないと思った。しかし、イエスはまさにザアカイを目指して歩いていた。そして、目的地ザアカイにたどり着いたのだ。

ただし、パウロは「主がお許しになるなら」と申し添える(7節)。自己満足ではなく、愛なる神に遣わされてゆく。だからこそ、道が閉ざされても苛立たない。それが愛。最後に、「働き人を支える」。テモテに配慮し、アポロに理解を示すパウロ。私たちも互いに支え合う、愛の働き人でありたい。

2025年度 竜丘キリスト教会

ミッション3要素



A. 働き人の切望

「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」
(マタイ 9:37-38)

人々の救いのため、教会の励ましと祝福のために。共に主に仕える兄弟姉妹が生まれ、教師が与えられることを祈り求めましょう。

B. 新たな集会の企画

夏のイベント、10月の創立記念イベント、クリスマスイベント。飯田竜丘鉄道ミッション。多くの方々が教会に集い、恵みを受けることができるように。

C. 他教会への伝道協力

兼務教会の飯田知久町教会、姉妹教会の伊那キリスト教会をはじめ、「自分のことばかりでなく、他人のことも考え」(ピリピ2:4)、惜しむことなく伝道協力に励みましょう。